

## 年間第30主日の説教

金 大烈 神父 2010年10月24日(日)

### 《ファリサイ派の人と徴税人》

主の平和！

皆様は今日の福音(ルカ 18・9-14)をどのように理解しましたか？二人の人が祈る為に神殿に入りました。一人は自分が正しい人間と考えているファリサイ派の人物、そして、もう一人は徴税人です。以前皆様に話しましたが、徴税人の仕事は自分の同族や隣人から税金を取り植民地としてイスラエルを支配していたローマの政府へ送っていました。そして、その中から自分も利益を取っていました。その為彼らは同じ民族からも裏切り者として扱われていました。

自分の事がすべて正しいと思っているファリサイ派の人は神に“この様に正しい生き方が出来てしあわせです”と祈ります。彼は声“音”に出さず心の中で祈ったと言う事が書かれています。それは本来この人は悪い人ではないと言う事を伝えなかった為でしょう。ある意味このファリサイ派の人の姿は私達の姿ではないでしょうか？「イエス様私は一生懸命頑張りました感謝します。」これは当たり前前の祈りです。イエス様はこの当たり前前の祈りをしたファリサイ派の人ではなく現実的に罪を犯した徴税人に対し手を差し伸べられました。

今日の福音のメッセージはその人が正しく生きているかどうかの問題ではありません、もしファリサイ派の人が徴税人の様な心で祈ればそれが最高でしょう。しかし今日の福音でイエス様が伝えたいことは、神様の前で自分が罪人と感じない人間がいることです。神さまの前にひざまずき頭を下げれば自分の罪が何であるかすぐにわかるはずです。

何故徴税人が神様から認められた人となったのでしょうか、それは罪を認める事です。それは自分のふるまいと関わらず神様あなたの前でいつも自分の罪を感じていますと言うへりくだる心、認める心、あなたがいないければ私は何も出来ませんと言う頼る心を見せる祈りでありそれが神様から認められる事でしょう。

皆様、私達はファリサイ派の人が見せた様な行き方を心がけなくてはなりません、しかし祈る心は徴税人の心を見習わなくてはなりません。良い事をして、当たり前な事をしてそれによって傲慢になってしまっただけは何の意味もありません。良い事をして徴税人の様に“主よ哀れんでくださいもし許されるなら、あなたが働かせて下さったので当たり前のようにしました”と言う心が何よりも必要ではないでしょうか。ファリサイ派の人がイエス様に認められなかったのはいろいろな、いい事を見なかった訳ではありません。なぜ素晴らしい事を沢山しているのに正しい心を持つ事が出来なかった事をもどかしく感じられていたのです。良い事をすれば自然に良い心が付いてくるはずですが。しかしあなたは何をしていたのか？ 善い行いを無駄にしてはいけないと言うメッセージだと思います。そして信仰の生活をしている私達にとっても同様な素晴らしいメッセージだと思います。私達はいろいろな

誘惑があっても信仰的な道を歩めて感謝しますと考えます。しかし感謝する心よりいろいろな事を頑張ってもあなたの前では罪人ですと言う自分の罪を認める心が何よりも素晴らしい福音的な考えである事を今日の福音のメッセージとして考えて下さい。

皆様この世の中で自分を破滅させる一番大きい悪の種は“傲慢”です。この“傲慢”は自分だけ破滅させればいいのですが、周りも一緒に破滅させます。この“傲慢”から解放される事が必要だと思いました。

また違う角度から考えて見ると、イエス様はファリサイ派と徴税人を例えて話しましたが、この二人の姿が私達の心にあるのではないのでしょうか。皆様の中にファリサイ派の人の祈りと、徴税人の祈り両方入っていると私は認めます。おそらく皆様もそうだと思います。これは裁く為のメッセージではなく自分の中にある働きについて注意しなさいと言うもう一つのメッセージではないかと感じます。この中に天国も地獄も全ての選択があります。この中をどのように耕す事、管理する事、コントロールする事が出来るかどうかで私達が天国を味わうか地獄を味わうかが決まるのではないのでしょうか？

皆様の心にはすでに天国も、地獄もあります。どちらを選ぶかは私達がどのような心でイエス様に頼るかによってかかっている事をはっきり覚えておきましょう。

ありがとうございました。